

校園内研修のさらなる充実に向けて

1. はじめに

研修事業の改善・充実に資することを目的として、大学等学識経験者・民間企業関係者・学校園関係者からなる「大阪市教育センター研修事業評価委員会」を開催し、研修事業の一層の充実をめざして協議を進めました。

2. 委員会の協議内容

重点課題として取り上げた内容

- ・大阪市教育センター経営方針
- ・授業力アップサポート事業・OJT 事業の進め方
- ・教育センター組織・機能の見直し

第1回（7月14日）、第3回（2月10日）を実施しました。第2回は、「経営方針中間評価」を中心とした資料提示としました。

第3回では、評価委員会のまとめとして、(1)「経営方針」の最終報告(2)授業力アップサポート事業・OJT 事業(3)教育センター組織・機能の見直しについて協議しました。

以下、協議における主な意見を掲載します。

- ・民間では、新入社員に対し、3つの施策を実施している。
 - ①新入社員に対して指導者に加えて10年目位の社員をチューターとして、マンツーマンで配置する。このチューターの社員にも研修を実施している。
 - ②自社独自のOJT実践マニュアルを作成している。
 - ③3年経ったときに一人前チェックリストを使って上司とチューターと本人で確認し、今後の課題を整理している。
- ・教育センターの取り組みは、全体として評価できる。特に「授業力アップサポート事業」によって、小学校だけでなく中学校でも授業研究が盛んになっていることは非常に評価できる。
- ・校園長の委員からは、「授業力アップサポート事業」は、役立っている。参加体験型の研究協議会を実際に行ってもらうなど、教科の枠を越えた校内研修会の在り方を提示していただき、参考になっている。

- ・ワークショップ形式の研修を取り入れる等、研修方法を工夫するとより一層参加率が高くなると思う。
- ・中学校では、教科の枠にとらわれず共通部分で話し合うことで校内研修が活性化してきた。
- ・教育センターで実施する研修を横軸とすると、縦軸は、校園内研修である。両方が絡まりあって、「学び合う組織づくり」を進めて行くことが大切である。
- ・学校園のニーズをより一層把握する必要がある。ニーズに応じた質の高い研修を実施するには、数の精選も必要ではないか。

貴重なご意見を参考に、来年度より、さらなる改善を図ります。

- ◆「授業力アップサポート事業」のより充実を図ります。
- ◆小学校で実施している「OJT 事業」の対象を、中学校教員（2年目）に広がります。
- ◆「大阪市教師養成講座」の対象を中学校に広がります。
- ◆指導教諭の積極的、有効な活用を図るとともに若手教員育成の核となる人材（メンター）を育てます。
- ◆研修のシラバスを提示し、目的、対象等をよりわかりやすく周知徹底します。
- ◆区やブロック等、地域単位で、よりきめ細かな研修を実施します。
- ◆自主研修（土曜日・夜間）の充実を図ります。
- ◆教育センターの研修と校内研修の連動をさらに図り、学校園における「学び合う組織づくり」を支援します。
- ◆若手教員の教師力を検証するため「振り返りシート（仮称）」を作成し、活用を図ります。